



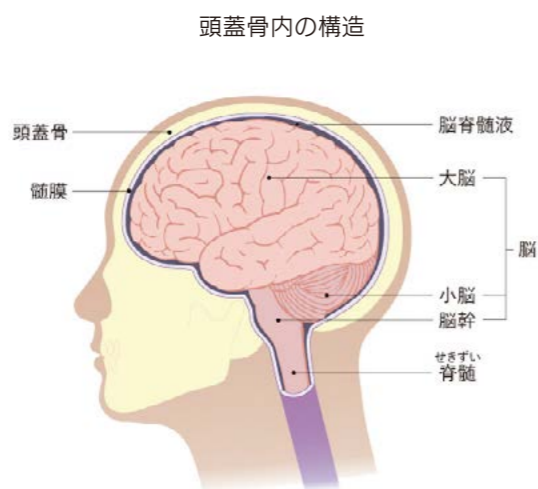
おかしいな?と思ったら早めに受診を

脳腫瘍って どんな病気?

脳は運動、言語、感覚、記憶などあらゆる活動をつかさどり、さらには生命の維持のために重要な臓器です。脳腫瘍は稀な病気ではありますが、早期発見のためにも脳腫瘍について正しい知識を身につけておきましょう。そこで、くわしいお話を脳神経外科の上月 暎浩先生にお聞きしました。

Q. 「脳腫瘍」とはどんな病気ですか。

A. 脳腫瘍とは頭蓋骨の中にできる腫瘍を指します。脳や下垂体(ホルモンを分泌する)、硬膜(脳を包む膜)などからできる腫瘍を原発性脳腫瘍、体の違う部位にできた癌がとんできたものを転移性脳腫瘍と呼びます。原発性脳腫瘍にも良性のものと悪性のものがあり、すべて含めると100種類以上あります。



出典:国立がん研究センターがん情報サービス



Q. 「脳腫瘍」はどのような原因でなりますか。

A. 脳腫瘍の発生する原因は遺伝子の変異と考えられていますが、詳しいことはわかっていません。ほとんどの脳腫瘍は遺伝しません、稀に遺伝性の疾患に脳腫瘍が合併することがあります。

Q. 「脳腫瘍」の症状にはどのようなものがありますか。

A. 腫瘍が小さい場合には無症状なことがほとんどです。腫瘍が大きくなってくると、頭痛(特に朝方に強い頭痛)や吐き気などが出現します。また脳腫瘍のできる場所によって症状は異なりますが、片側の手足の麻痺や聴力障害、けいれん発作や認知機能障害、月経異常などが出現することもあります。

Q. 「脳腫瘍」の治療方法について教えてください。

A. 腫瘍の場所や性質によって異なりますが、「経過観察」「手術」「放射線治療」「化学療法」から最適なものを選びます。脳腫瘍は非常に種類が多くそれぞれ治療法が異なるため、「手術」で腫瘍を摘出し正確な診断をつけることが重要です。悪性の原発性脳腫瘍や転移性脳腫瘍に対しては、手術後に「放射線治療」や「化学療法」が必要になることも多いです。

Q. 「脳腫瘍」の検査はどのようにするのですか。

A. 大事なのは問診と頭部CT・頭部MRIなどの画像検査です。脳腫瘍が疑われる方に対しては、造影剤を用いて頭部MRIを撮影することである程度腫瘍の正体を推定できます。下垂体部の腫瘍や転移性脳腫瘍では、血液検査でホルモンの値や腫瘍マーカーを計測し診断に役立てます。

Q. 「脳腫瘍」の予防法はありますか。

A. 残念ながら脳腫瘍の発生する原因もわかっておらず、現時点では脳腫瘍を予防する方法は確認されていません。携帯電話と脳腫瘍との関連については1日30分以上かつ10年以上の耳元での通話を続けた場合に脳腫瘍発生リスクが高くなるという報告がありますが、通常の使用では問題ないと考えられています。

上月先生から
ひとこと

脳神経外科 医長
上月 暎浩

脳腫瘍は人口10万人あたり10~12人程度の珍しい病気ですが、茨城県民は300万人いるため年間300~360人程度の脳腫瘍が発生します。脳卒中とは違って症状が徐々に進行することが多いため、早期発見・早期治療が大事です。特に御家族から見て「何かおかしい」「いつもとちがうな」と思うような症状がある場合には、ぜひ脳神経外科を受診してみてください。